



◆令和5年度学校評価◆

2学期末に実施いたしました学校評価アンケート（児童、保護者）、教職員自己評価を実施いたしました。その後、自己評価が適切であるかどうかを、学校関係者評価委員の皆様へ評価していただきました。以下のとおり、学校評価書としてまとめましたので、学校ホームページに掲載の学校評価アンケート結果、教職員自己評価とともにご覧いただき、今後の学校教育活動へのご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。

令和5年度 上尾市立平方小学校 学校評価書

【評価基準】 A（できている） B（どちらかと言えば、できている） C（どちらかと言えば、できていない） D（できていない）

領域	自己評価				学校関係者評価		
	評価規準	主な方策	評価	昨年度評価	〇成果 ▲課題・改善点	評価 意見・提言（〇成果、▲課題・要望等）	
I 学校経営・学校教育目標	1 学校教育目標や目指す学校像の具現化に向けて、学校・学年・学級経営や学習指導・その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。	〇教職員それぞれが、校長のミッションのもと「教科指導等」「学級経営等」「校務分掌等」について目標を設定し、連携協力をしながら学校運営にあたる。 ・学校グランドデザインをもとにした教育活動 ・自己評価シートを活用した教育活動	A	A	〇教職員が校長の学校経営方針を理解し、目指す学校像を具現化するための方策を自己評価シートに記述した。 〇情報共有に校務システムを活用することで、スムーズに教育活動が行われた。	〇どのようにすればより良い平方小になるか常に考えている感じがします。 A	
	2 教職員それぞれが力を発揮し、各分掌（役割）や各学年が連携・協力して、学校運営にあたっている。	〇教職員がチームワークを発揮して、計画的・組織的に学校運営にあたる。 ・キャリア段階に応じたチームワーク行動の実践 ・グループウェアを活用した指示伝達、連絡事項の確認、情報共有、共通行動	A	A	〇学校全体で児童の自己有用感を高めることを意識したエビデンスに基づく「ほめる教育」を全教職員で取り組むことができた。	〇教職員が時間外在校等時間を意識した働き方ができ、時間外在校等時間が大幅に削減された。	〇数少ない教職員ですが、協力し合って学校運営に当たっていると思います。 A
	3 児童の良い点を認め・褒めるとともに、いけないことは毅然と叱り、一人一人を伸ばすことを念頭に教育にあたっている。	〇学校全体で「ほめる教育」を更に推進し、児童一人一人のよさを見つけ、認め、褒めることを積極的に実践する等、生徒指導・教育相談を充実させる。 ・学級担任と専科教員並びに関係職員の連携 ・複数教員による協力的指導 ・きめ細かな指導のための生徒指導関連研修	A	A	〇教職員が時間外在校等時間を意識した働き方ができ、時間外在校等時間が大幅に削減された。	〇教職員が時間外在校等時間を意識した働き方ができ、時間外在校等時間が大幅に削減された。	〇今後も叱る事は叱り、しっかり説明し「理解」させる事が大切であり、ほめて伸ばせる教育を継続していければと思います。 A
	4 学校の働き方改革を推進し、教職員が心身共に健康な状態で児童と向き合っている。	〇ワークライフバランスを意識した働き方を奨励し、優先順位や時間対効果を常に考えた教育活動を実践する。 ・出退勤システムを活用した勤務状況実態の把握 ・月毎の行事予定や週報を活用した業務の見通し ・ふれあいデー・かえろうデー（定時退勤日）の設定	B	A	▲小規模校であるため、教職員が新型コロナウイルスやインフルエンザ等で休んだ場合の他の教職員への負担が増え、ワークライフバランスを保つのが難しい。	▲学校というより、教育行政の課題である。 ▲働き方改革の結果、児童へのサービス低下にならないよう心がける。 〇定時退勤日を設けるなどにより心身をリフレッシュしようとする努力が伺えます。 〇地域力の推進・活用を望みます。助けたい、協力したいと思っている平方小応援隊の発掘始まっていると思います。	A
II 学習指導・学力向上	5 指導方法を工夫・改善し、児童の学習への関心・意欲・態度を高めるとともに、基礎・基本の確実な定着を図る授業を実践している。	「わかる・できる」授業を実現するために、指導方法の工夫改善を行う。 ・学力向上プランの策定 ・指導方法工夫改善研修の実施 ・教材研究及び授業準備時間の確保 ・ICTの積極的な活用	A	B	〇教科指導等では、児童の現状から学力向上の方策を各学年で分析し、自己評価シートに記入するとともに、年間を通して授業で実施した。 〇児童に配布されたchromebookを活用した授業が展開された。	〇アンケートを見ても、児童の満足度は非常に高い。 A	
	6 主体的・対話的で深い学びを重視しながら学習指導を行っている。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを行う。 ・教育課程説明会の内容伝達と情報共有 ・伝え合いの授業づくり ・ICTを活用した授業づくり	A	A	〇3学年以上で少人数学習、習熟度別学習（算数）を継続的にを行い、児童の学力向上に一定の成果があった。	〇算数での習熟度学習は効果的であると思う。今後も継続し、学力向上に努めてほしい。 A	
	7 【新規】教科担任制や算数習熟度別学習を効果的に生かし、基礎・基本の確実な定着を図る授業を実践している。	教科担任制、算数習熟度別学習で児童の学力向上、複数の教員が多面的に児童を見ることによるきめ細かな指導を行う。 ・少人数学習、習熟度別学習の実施（3年生以上、算数） ・教科担任制の実施（6年社会、理科、3年社会、2～6年音楽 等）	A	-	▲基礎学力の向上のために、家庭学習の改善が必要である。 ▲よく読書する児童とあまり読書しない児童に分かれる傾向があるため、教職員が読書の有用性や楽しさを伝えていく必要がある。	〇算数での習熟度学習は効果的であると思う。今後も継続し、学力向上に努めてほしい。 A	
	8 朝読書の時間は教師もその姿勢を示し、読書に親しむ児童が育つように読書活動を推進している。	学校図書館を活用した読書活動を推進する。 ・教職員による読み聞かせ実施 ・読書の木 ・学校図書館支援員による環境整備	B	B	▲ネット社会で読書の役割は低下していると思う。仕方ない部分もあると思う。自己評価の8のアンケート結果は課題か。 ▲一部の保護者はなんでも学校任せになってしまっている。家庭でしか教えられないものもある。 ▲とても短い時間だと思いますが、読み聞かせを地域の方にボランティアとして行ってもらうのはどうか。 ▲家庭学習の改善、読書活動の充実は平方小学校だけの課題ではなく、国全体が本気になって取り組まねばならぬ内容だと思います。より良い家庭学習、より深い読書活動（生活）等、子供の未来に直結する大切なことだと思いますが、現在も悩み進行中です。	▲ネット社会で読書の役割は低下していると思う。仕方ない部分もあると思う。自己評価の8のアンケート結果は課題か。 ▲一部の保護者はなんでも学校任せになってしまっている。家庭でしか教えられないものもある。 ▲とても短い時間だと思いますが、読み聞かせを地域の方にボランティアとして行ってもらうのはどうか。 ▲家庭学習の改善、読書活動の充実は平方小学校だけの課題ではなく、国全体が本気になって取り組まねばならぬ内容だと思います。より良い家庭学習、より深い読書活動（生活）等、子供の未来に直結する大切なことだと思いますが、現在も悩み進行中です。 B	

III 生徒指導・心の教育	9	児童が約束やきまりを守り、規則正しく学習したり、けじめを持って生活したりできるよう指導している。	児童の規範意識向上のため、基本的生活習慣の確立や集団生活のルールやマナーを身に付けさせる。 ・平方小の合言葉「あいうえお」の徹底 ・全校お話し会での校長講話 ・生徒指導委員会での共通理解と共通実践 ・「平方小学校のきまり」「学習の約束」	A	A	○児童に平方小の合言葉「あいうえお」が定着し、意識した生活を送る児童が増えた。 ○生徒指導委員会では各学年の情報交換を行い、学校全体で情報共有を行った。	○学校に行くときよく挨拶をされる。旗当番の時もみんなであいさつをしてくれる。 ○率先垂範の功あり元気な挨拶ができています。とりわけ朝の挨拶は大きな声を競っているようで元気を貰えます。大きな成果です。 ▲先生方での共通理解、共通行動で子供たちに指導してほしい。
	10	児童が互いに良さや頑張りを認め合い、思いやりの心を持って生活できるよう指導している。	やさしい言葉遣いや礼儀正しい行動、相手の立場になって考えることの指導を行う。 ・道徳教育や特別活動の充実 ・重点週間を設定	A	B	○なかよしタイムを活用し、異学年交流することで、児童の思いやりや認め合う心を伸ばせた。	
	11	いじめ・不登校・その他の問題行動への日常的な未然防止や早期発見・対応に努めている。	児童の実態を十分に把握するとともに教員間で情報の共有を図りながら、迅速な対応を行う。 ・生徒指導委員会の開催 ・学校生活アンケートの実施・活用 ・生徒指導事例研修会の開催	A	A	○担任任せではなく、いじめ・不登校等諸問題に迅速にチームで対応できた。 ▲学年が上がるにつれて、基本的生活習慣がおろそかになる傾向がみられる。	▲困った時に相談できない児童が10%以上となっている。 ○5年間子供たちと接し、確実にとても良い挨拶ができる子たちと出会えました。高学年のお子さんでもきちんと挨拶ができる平方小の子供たち、学校全体の明るさ、素直さ等、垣間見えます。
IV 体力向上・健康・安全	12	体育の授業や体育的行事の充実、外遊びの奨励などをとおして、児童の体力が向上するよう指導している。	運動する時間の確保とともに楽しい体育授業で、自ら進んで運動する児童の育成を図る。 ・体育授業での共通指導事項の確認 ・ひらかたチャレンジの実施 ・外遊び推奨 ・ひらまるんピック2023（体育行事）の設定 ・全校縄跳び大会の設定 ・校内持久走大会の実施 ・水泳授業の実施	A	B	○ひらまるんピック2023や校内持久走大会を通して、目標をもって運動に取り組むことの大切さを児童に伝えることができた。 ○コロナの5類移行を受けて、活動内容の見直しを行うことができた。	▲体育学習の充実で体を動かすことが大好きな児童の育成をこれからも続けていってください。
	13	病気予防や事故防止など、健康で安全に生活するための取組を充実させている。	感染症・むし歯やケガの予防、交通事故、防犯・防災に対する児童の意識を高められるよう指導を充実させる。 ・保健学習の充実 ・避難訓練の充実 ・歯科保健の取組及び啓発 ・定期健康診断・発育測定の実施	A	B	○小中一貫を意識した太平中学校区地域学校保健委員会を立ち上げ、実施することができた。 ○保護者との面談や給食提供時のチェックの徹底により、アレルギー事故は0であった。 ▲児童の歯科受診率が低く、家庭との連携が必要である。	▲家庭環境もあると思いますが、虫歯などを放置するとどうなるかを保護者、児童に伝え、受診率を上げていければと思います。 ▲歯科受診率の低さも平方小だけの問題だけでないと思います。おそらく視力もデータ化してみると相当低くなっていると思います。無料になっても受診率が上がらないこと、原因を突き詰めていき、改善の方策が見つけれたら、平方小の取組のワクワク感が得られそうな予感がします。
	14	食に関する指導や食物アレルギーへの対応に関する取組を充実させている。	栄養バランスのとれた食事の大切さを理解と実践を促す指導を充実させるとともに、食物アレルギー事故防止の取組を徹底させる。 ・食育の充実（たより発行） ・給食委員会の活動（放送など） ・「早寝 早起き 朝ごはん」の啓発 ・アレルギー対応マニュアルに沿った対応 ・調理実習の実施	A	A		
V 研修	15	研究主題に沿った研修が計画的・組織的に進められている。	児童の実態に即した研究主題の内容を検討する。 ・理論研修を実施 ・研究授業を実施	A	A	○研究主題のテーマを「児童の自己有用感の育成」とし、体育科の授業を中心に研究を進めることとした。	
	16	学校課題研究の推進により、教師の資質・能力が向上し、児童の成長につながっている。	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行う。 ・理論研修を生かした研究授業の実施 ・ほめる教育の推進 ・ICTを活用した授業の実践	A	B	○理論研究、研究授業を通じて研究主題を教職員間で共有した。 ○主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組み、教師の資質・能力が向上した。 ▲教員の授業力は向上しているが、児童の基礎学力の定着に課題がある。	▲基礎学力の定着は、国語・算数の基礎基本の定着に基づくと思います。教師個々の力ではなく、どの教師が教えてもきちんと学年毎の積み上げがなされていけば子供たちは安心して、迷うことなく日々の学習生活が送れると思います。1年の担任の先生から6年の担任の先生まで一貫した内容を創り上げていく家庭学習への取組、受け止め方等させて学年内は統一を図ってほしいと思います。小規模校だからこそできることだと思います。
VI 環境整備	17	校舎内外の整頓に努め、安全・衛生・美化に配慮された教育環境づくりに努めている。	児童が安心して学べる安全で衛生的な教育環境の整備を推進する。 ・毎月の安全点検の実施と対応 ・黙働による清掃活動 ・市教委と連携した施設設備の管理修繕 ・樹木や花壇の整備	A	B	○毎月の安全点検を実施し、施設・設備の瑕疵による事故はゼロであった。 ○PTA 学年環境部や青少年育成会と連携し、花壇を整備した。	○除草では地域への協力を呼び掛けていただいた。花壇では児童の協力もいただいた。
	18	教室や廊下などに時季に応じた適切な掲示を行い、教育環境を整備している。	季節や学校行事並びに学習内容を考慮した掲示物や作品展示を行う。 ・学年掲示板や特設掲示コーナーの設置 ・掲示委員会児童による掲示作成	A	B	○学年掲示板は児童の活動や学年の特色を表した掲示物などの工夫がされていた。	

VII 保護者・地域連携	19	学校運営協議会での熟議のもと、家庭（PTA）・地域並びに学校応援団等と連携を深め、問題解決に向けてコミュニティスクールとして活動している。	学校運営協議会での重点課題の熟議とともにPTA等との活発な情報共有及び意見交換で教育環境の整備に努める。 ・学校運営協議会の定期開催 ・PTA、おやじの会、ボランティアとの連携 ・学校応援団の拡充	B	B	○学校運営協議会において熟議を重ね新規事業を実現することができた。 ○学校運営協議会委員を中心に地域の有志の方に校庭の除草作業を実施していただいた。 ○新型コロナウイルスの5類移行を受けて、おやじの会、PTAによるキッズフェスタを行うことができた。 ○さくら連絡網を活用し、校外学習情報、ちらし配付など適宜情報発信をすることができた。 ▲児童の様子を保護者に伝える手段としての学校ホームページの工夫改善が必要である。	○OPTAでかえる諸問題にも先生方の協力をいただいている。 ▲PTA＝保護者の活動とならないようにすることが大切 ▲役員名簿にある先生方にどのように関わっていただくかは例年の課題。 ○地域ボランティアにより環境整備ができた。これからは継続できるように連携を大切にしていければと思います。 ○学校・地域・おやじの会等の連携がよくできている。 ○地域事業に校長先生をはじめ先生方に参加していただいで地域との一体感を感じます。 ○運動会前の校庭の除草作業に地域の方々の自発的な応援が得られたことは地域と学校の関係が良好であることを意味します。そこには、校長・教頭先生がもつお人柄と「地域とともにある学校」が浸透しています。 ○保護者の朝の旗振りについては、委員を介しての調査と校長自ら幾つもの現場を把握したことは今後の取組につながるものとなりました。 ▲保護者の朝の旗振りも下校ボランティアも同じ見守りです。しかし、保護者は下校ボランティアさんの顔を知らないのが実態です。顔合わせの場もしくは交流の機会・場がほしいと思います。 ○新しい取組が計画的に実施することができ、地域との連携が図られてよかった。
	20	学校ホームページや学校だより等をとおり、学校経営方針や教育活動・児童の様子について、家庭・地域に情報を発信している。	学校教育活動の方針や取組、様子などが伝わるように学校ホームページやだより等とおして家庭・地域への情報を積極的に発信する。 ・学校だより・学年だより紙面改訂・定期発行 ・学校ホームページの更新 ・学校配信メールの活用	B	A		
	21	学校に寄せられた意見や要望をもとに、教育活動の工夫・改善に役立てている。	寄せられた意見・要望を改善のための第一歩と捉え、教育活動を客観的に見直す機会とする。 ・学校教育活動アンケートの実施（保護者・児童） ・さくら連絡網の機能活用 ・連絡帳等での意見・要望の共有化	A	B		
VIII 教育活動の充実	22	【新規】 行事ついて、児童の発達段階や教育効果にあった計画を立て、教育活動を充実させている。	行事の目的や教育的効果、準備時間等を考慮し、ゼロベースで計画を立てる。 ・各行事担当による計画立案 ・職員会議による検討 ・行事終了後の反省	A	-	○新型コロナウイルスの5類移行を受けて、行事の内容やあり方について検討し、よりよい内容とすることができた。 ○保護者の参加人数の制限をなくし、多くの保護者に児童の学習成果を見せることができた。	○大切な行事を絶大な心配り、ご配慮により開催していただきました。
	23	【新規】 業間30分休みを効果的に活用し、教育活動の充実に役立てている。	授業時数及び授業時間（45分）を確保するため、業間30分休みを活用する。 ・全校お話会の実施 ・表彰集会の実施 ・ひらチャレの実施 ・なかよしタイムの実施	A	-	○30分休みに教育活動を実施することで授業時数及び授業時間（45分）を確保することができた。 ▲働き方改革の観点から行事内容や必要時数等の検討が必要がある。	○子供たちが伸び伸びと遊ぶ姿を見られることが地域に活力を与えてくれています。